

ツチクジラ 太平洋・日本海・オホーツク海

Baird's Beaked Whale, *Berardius bairdii*



管理・関係機関

農林水産省

漁業の特徴

捕獲は少なくとも17世紀に遡り、明治時代初頭まで千葉県勝山沖を中心に手投げ鉈で捕獲していた。戦後、小型捕鯨業による捕獲が急増し、漁場も千葉県周辺から三陸、北海道、日本海沿岸まで広がった。本種は体長10mに達する歯鯨類で、IWCの管轄外種であり、商業捕鯨モラトリアム以降も、我が国政府の管理の下で捕獲が継続している。現在の商業捕獲は、大臣許可漁業である小型捕鯨業のみで実施され、北海道網走市、宮城県石巻市、千葉県南房総市にある鯨体処理場で水揚げ・解体・処理されている。

生物学的特性

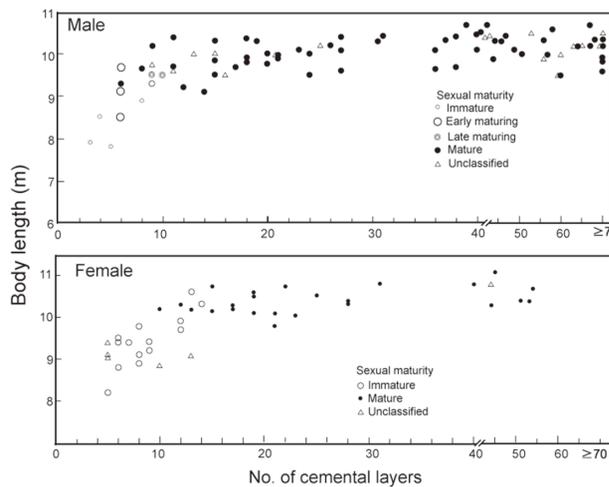
- 体長・体重：9～12 m (上顎先端から尾鰭分岐点までの長さ)・9～12トン
- 寿命：雄84歳、雌54歳(捕獲物の最高年齢)
- 成熟開始年齢：雄6～11歳、雌10～15歳
- 繁殖期・繁殖場：交尾期10～11月、出産期3～4月・繁殖場は調査中
- 索餌期・索餌場：周年・房総、常磐沖ほか
- 食性：魚類、頭足類
- 捕食者：シャチ

漁獲の動向

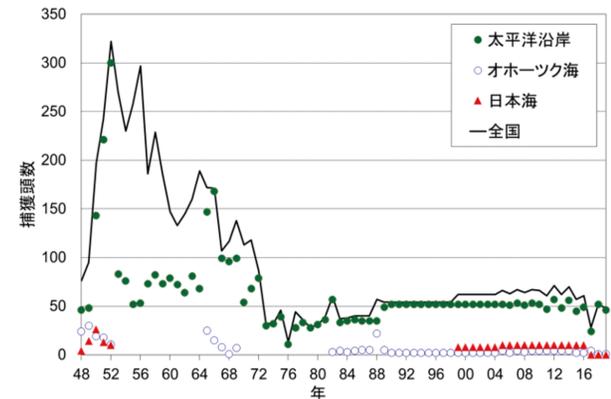
太平洋側沿岸での捕獲が主体であり、1950～1970年代初頭にかけて年間100頭を超える捕獲が行われた(自由操業)。1983年に自主規制枠、1990年に捕獲枠が導入され、1999年以降は、年間捕獲枠62頭(太平洋沿岸+オホーツク海54頭、日本海8頭)が設置されてきた。2005年に枠の見直しが行われ、系群ごとに太平洋52頭、オホーツク海4頭、日本海10頭、計66頭の捕獲枠が設置された。なお、このうち太平洋系群については、その年の捕獲数が捕獲枠に満たなかった場合、10頭を上限に翌年への繰り越しが認められている。2019年は太平洋53頭(前年からの繰り越し1頭を含む)、オホーツク海4頭、日本海10頭、計67頭の捕獲枠の下に操業が行われ、47頭が捕獲された。

利用・用途

肉は房総半島周辺でタレと呼ばれる乾肉、他の地域では、生鮮肉、缶詰加工用肉等。脂皮は汁物。



体長と年齢の関係



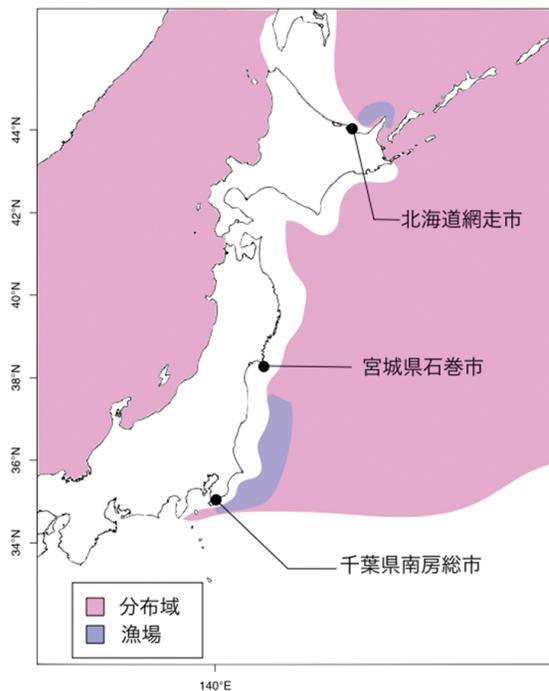
ツチクジラ捕獲頭数の経年変化

資源状態

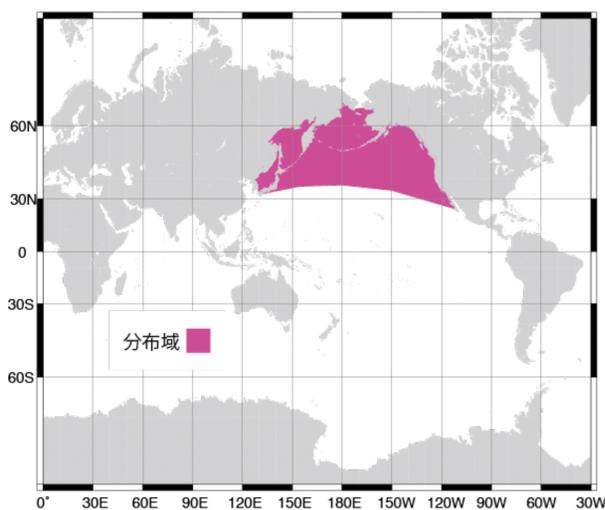
資源量の推定値は、太平洋沿岸（北海道～相模湾）：5,000頭（95%信頼区間2,500～10,000頭：1991～1992年）、日本海東部：1,500頭（同370～2,600頭：1983～1989年）、オホーツク海南部：660頭（同310～1,000頭：1983～1989年）である。IWCの管轄外種のため、資源状態に関する国際合意はない。過去の統計は別種の混在の可能性もあり、1970年以前の捕獲が初期資源に与えた影響は明らかでない。各系群の資源量推定値は5,000頭以下と小さく、分布範囲も限られていることから、資源水準は中位とした。捕獲物組成の動向は、資源の増減の兆候がないことから、資源動向は横ばいと考えられる。

管理方策

IWC科学委員会は、ひげ鯨類が対象の新たな資源管理モデル（改訂管理方式：RMP）を開発したが、社会構造（群れ構成や繁殖様式等）が複雑な歯鯨類には適用できない。推定資源量の約1%を目安とした捕獲枠や、PBR（Potential Biological Removal：混獲動物の管理に米国で採用されている資源量、増加率等の不確実性を取り込んだ捕獲枠算出モデル）による試算値等を参考に農林水産省が捕獲枠を設定している。この他、小型捕鯨業を行う操業隻数（5隻）及び鯨体処理場が農林水産大臣による許可制となっている。



日本周辺におけるツチクジラの分布と漁場及び主な水揚地(鯨体処理場)



ツチクジラの分布図

ツチクジラ（太平洋・日本海・オホーツク海）の資源の現況（要約表）

資源水準	中位
資源動向	横ばい
世界の捕獲量（最近5年間）	なし
我が国の捕獲量（最近5年間）	28～61頭 最近（2019）年：47頭 平均：49.2頭（2015～2019年）
管理目標	現在の資源水準の維持
資源評価の方法	ライントランセクト法に基づく目視調査データ解析から資源量を推定
資源の状態	<ul style="list-style-type: none"> 太平洋沿岸（北海道～相模湾）：5,000頭（2,500～10,000頭、1991～1992年） 日本海東部：1,500頭（370～2,600頭、1983～1989年）（過小推定の可能性大） オホーツク海南部：660頭（310～1,000頭、1983～1989年）（過小推定の可能性大）
管理措置	<ul style="list-style-type: none"> 年間捕獲枠66頭（日本海10頭、オホーツク海4頭、太平洋52頭） 洋上解体禁止と鯨体処理場の指定（北海道網走市、北海道釧路市、青森県八戸市、宮城県石巻市、千葉県南房総市、和歌山県太地町） 農林水産大臣による許可制（許可隻数5隻） 衛星を利用した船舶位置の確認
最新の資源評価年	2012年
次回の資源評価年	2022年を予定